

同時発表：東北地方整備局

令和4年3月7日
道路局

災害に強く、新たなまちを支える復興道路・復興支援道路 東日本大震災から10年が経過し、節目の年に全線開通

復興道路・復興支援道路は、一刻も早い復旧・復興を目指し、災害に強く、新たなまちを支える道路として、約10年で全線開通（550km）を実現しました。

広域的な道路ネットワークの完成で主要都市間の所要時間が短縮し、津波浸水区域の回避や復興まちづくりと一体となったインターチェンジ配置などにより、沿線では様々な効果が発現されています。

1. 沿線における工場立地の加速・地域産業を支援

- 青森・岩手・宮城では、復興道路・復興支援道路沿線に新たに工場が245件立地
- 福島県内では、復興支援道路沿線の相馬港エリアに新たに工場が13件立地

2. 沿線の「道の駅」等により、復興まちづくりとしての拠点を支援

- 沿線における21箇所の道の駅を、道路上からの案内を充実し休憩サービス等を提供
・震災以降、10箇所の道の駅がオープン（うちリニューアル5箇所含む）

3. 全線開通後の交通状況

- 交通量は全路線で増加、特に大型車交通量の伸びが大きく被災地の物流を支援
 - ・三陸沿岸道路では、特に岩手県内の大型車交通量が1.3倍～1.7倍増加
- 三陸沿岸道路は、冬期においても信頼性の高い機能を確保
 - ・東北自動車道が吹雪による通行止め時に、大型車約2,000台が三陸沿岸道路に転換
- 沿線市街地において交通混雑が緩和
 - ・宮城県気仙沼市内の幹線道路では、混雑区間が約44%から約2%まで減少
- 実際に走行した車両のデータ（ETC2.0データ）を用いて、走行時間を分析
 - ・仙台港北IC～八戸南IC間の走行時間は約4時間30分

<問い合わせ>

国土交通省 道路局 国道・技術課 国道事業調整官

しどうじ たかし
四童子 隆（内線 37803）

企画専門官

もりた ゆうすけ
森田 裕介（内線 37832）

代表電話 03-5253-8111 直通電話 03-5253-8492 FAX 03-5253-1620

災害に強く、新たなまちを支える復興道路・復興支援道路 東日本大震災から10年が経過し、節目の年に全線開通

～沿線における工場立地の加速、地域産業を支援～
～交通量が全路線で増加、被災地の物流を支援～

復興道路・復興支援道路は、復興のリーディングプロジェクトとして震災後10年で全線開通させることを目標に始動しました。

三陸沿岸道路や東北横断自動車道（釜石～花巻）など、震災時点で開通していた区間は、わずか173km（約3割）で、主要都市間の移動はおもに現道を利用していました。仙台から八戸間の時間は8時間35分を要していました。

復興道路・復興支援道路は、一刻も早い復旧・復興を目指し、災害に強く、新たなまちを支える道路として、約10年で全線開通（550km）を実現しました。

広域的な道路ネットワークの完成で主要都市間の所要時間が短縮し、津波浸水区域の回避や復興まちづくりと一体となったインターチェンジ配置などにより、沿線では様々な効果が発現されています。

1. 沿線における工場立地の加速・地域産業を支援

- 青森・岩手・宮城では、復興道路・復興支援道路沿線に**新たに工場が245件立地**
- 福島県内では、復興支援道路沿線の相馬港エリアに**新たに工場が13件立地**

2. 沿線の「道の駅」等により、復興まちづくりとしての拠点を支援

- 沿線における**21箇所の道の駅を、道路上からの案内を充実し休憩サービス等を提供**
 - ・震災以降、**10箇所の道の駅がオープン（うちリニューアル5箇所含む）**

3. 全線開通後の交通状況

- 交通量は**全路線で増加**、特に**大型車交通量の伸びが大きく被災地の物流を支援**
 - ・三陸沿岸道路では、**特に岩手県内の大型車交通量が1.3倍～1.7倍増加**
- 三陸沿岸道路は、冬期においても信頼性の高い機能を確保**
 - ・東北自動車道が**吹雪による通行止め時に、大型車約2,000台が三陸沿岸道路に転換**
- 沿線市街地において交通混雑が緩和
 - ・宮城県気仙沼市内の幹線道路では、**混雑区間が約44%から約2%まで減少**
- 実際に走行した車両のデータ（ETC2.0データ）を用いて、走行時間を分析
 - ・**仙台港北IC～八戸南IC間の走行時間は約4時間30分**

<発表記者会> 青森県政記者会、岩手県政記者クラブ、宮城県政記者会、福島県政記者クラブ、東北電力記者会、東北専門記者会

【問い合わせ先】

国土交通省 東北地方整備局 TEL 022-225-2171（代表）

道路部	道路計画第一課	課長	かしわ 柏 宏樹（内線 4211）
	道路計画第二課	課長	おおさわ 大澤 尚史（内線 4251）

復興道路・復興支援道路について

- 災害に強い道路とするため、**強靱性の確保**と**防災機能の強化**を実現
- 新たなまちづくり**と暮らしを支える道路として、**インターチェンジ**を弾力的に配置。地域の産業・商業施設、防災拠点や医療施設への**アクセス性を強化**して**復興まちづくりを支援**

○強靱性の確保、防災機能の強化

- ・津波浸水区域を回避することで災害時の通行も可能
- ・災害時に復興道路が避難場所になるように避難階段を設置

復興道路のルートは、津波浸水域を95%回避

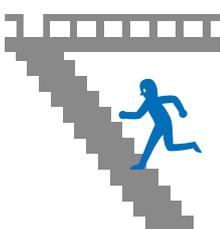


残りの5%は高さのある橋梁で通過



復興道路への避難階段や緊急連絡路を設置

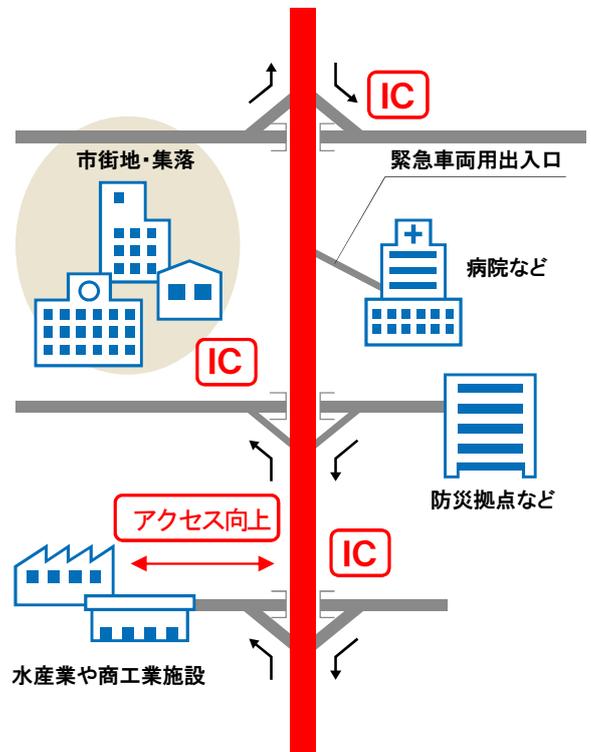
三陸沿岸道路



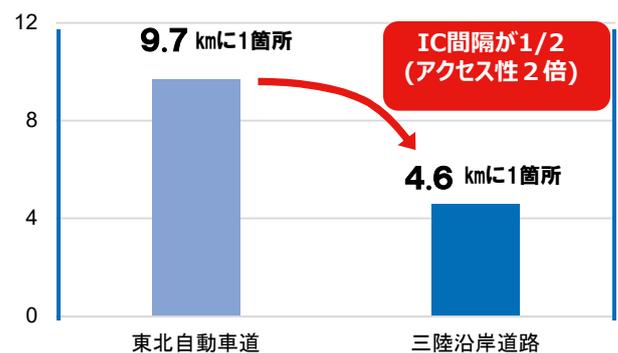
岩手県普代村 避難訓練

○復興まちづくりの支援

- ・復興まちづくりと一体となって利便性を考慮したIC(インターチェンジ)を弾力的に配置
- ・ICの弾力的な配置により水産業や商工業施設、防災拠点や病院等へのアクセス性を向上



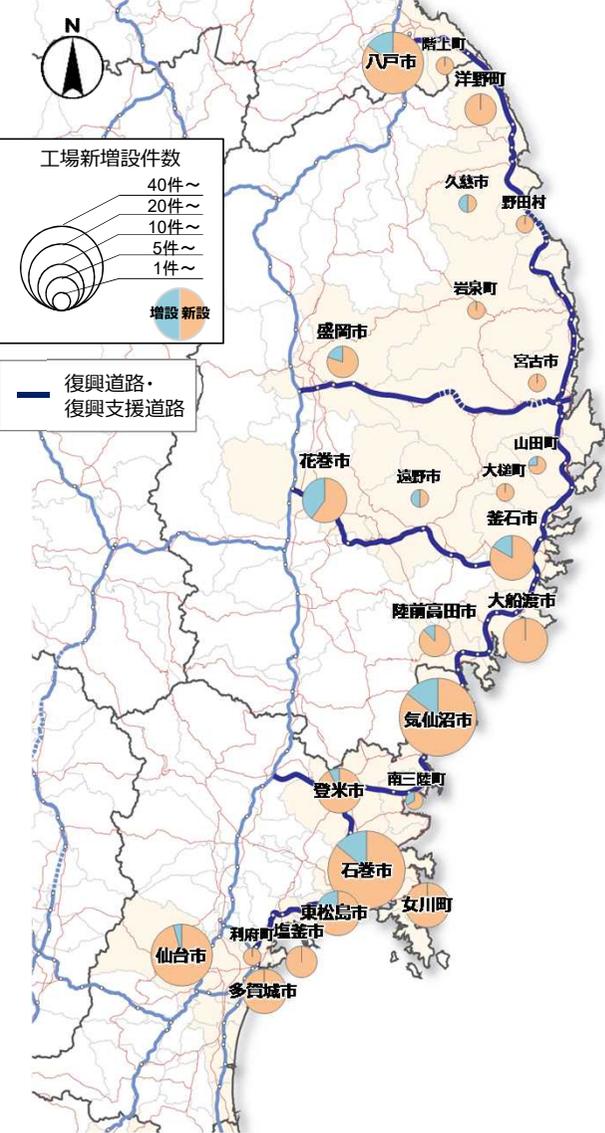
復興道路のIC設置間隔(仙台～八戸間)



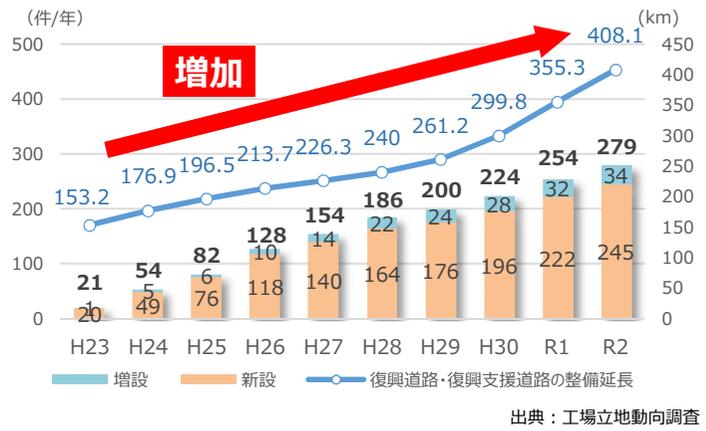
青森・岩手・宮城では、復興道路・復興支援道路沿線に新たに工場が245件立地

- 青森・岩手・宮城では、復興道路・復興支援道路沿線に**新たに工場が245件立地**
- 宮城県気仙沼市では効率的な流通体制を目指して共同トラックターミナルを整備。三陸沿岸道路より運送事業者6社が配送
- IC近郊に水産加工団地が集積、工場立地の約7割を占める水産加工業の出荷額も回復の兆しがみられ、**地域産業の復興を支援**

■青森・岩手・宮城の工場立地状況(H23～R2)



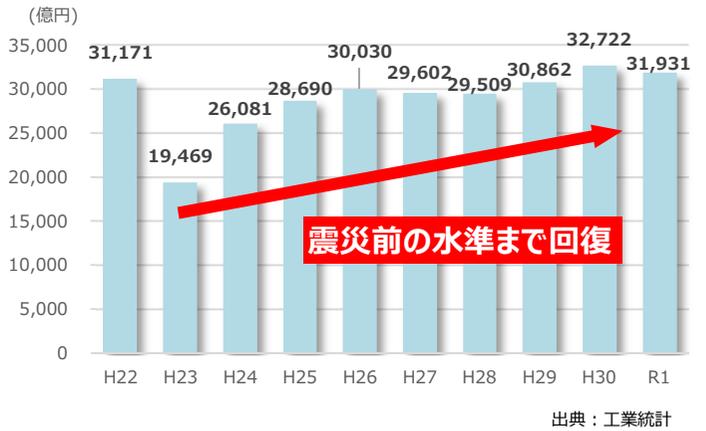
■工場立地の推移(累積) (復興道路・復興支援道路沿線市町村)



■気仙沼IC近隣の水産加工施設等集積地



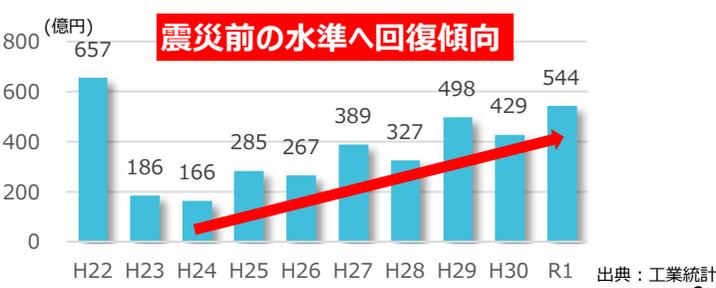
■製造品出荷額 (復興道路・復興支援道路沿線市町村)



■気仙沼市工場立地の産業分類内訳(H23-R2)



■気仙沼市の水産加工業出荷額の推移



※工場立地動向調査は、製造業、電気業、ガス業、熱供給業の用に供する工場又は研究所を建設する目的をもって、1,000平方メートル以上の用地（埋立予定地を含む）を取得（借地を含む）した事業者を対象としているため、右図の気仙沼市の水産加工団地の立地企業数と異なる

復興道路・復興支援道路沿線の「道の駅」等により、復興まちづくりとしての拠点を支援

- 復興道路・復興支援道路沿線における21箇所の道の駅について、道路上からの案内を充実し休憩サービス等を提供
- 岩手県久慈市の新たな広域道の駅の開業予定や「大谷海岸」「高田松原」などがリニューアルオープンし、賑わいを創出
- 沿線にある震災伝承施設へのアクセスが向上し、教育旅行で多く利用されるなど見学エリア、見学時間が拡大

①広域道の駅(岩手県久慈市)



②道の駅「高田松原」(岩手県陸前高田市)



③道の駅「大谷海岸」(宮城県気仙沼市)

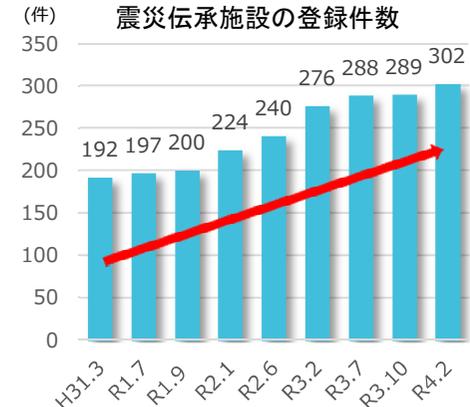
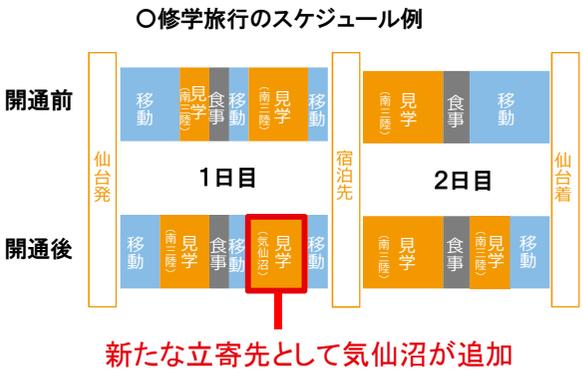


■震災以降、10箇所の道の駅がオープン(うちリニューアル5箇所含む)
震災前:16箇所、現在:21箇所

■道の駅「高田松原」はオープン(R1.9.22)から2年で約100万人が来場



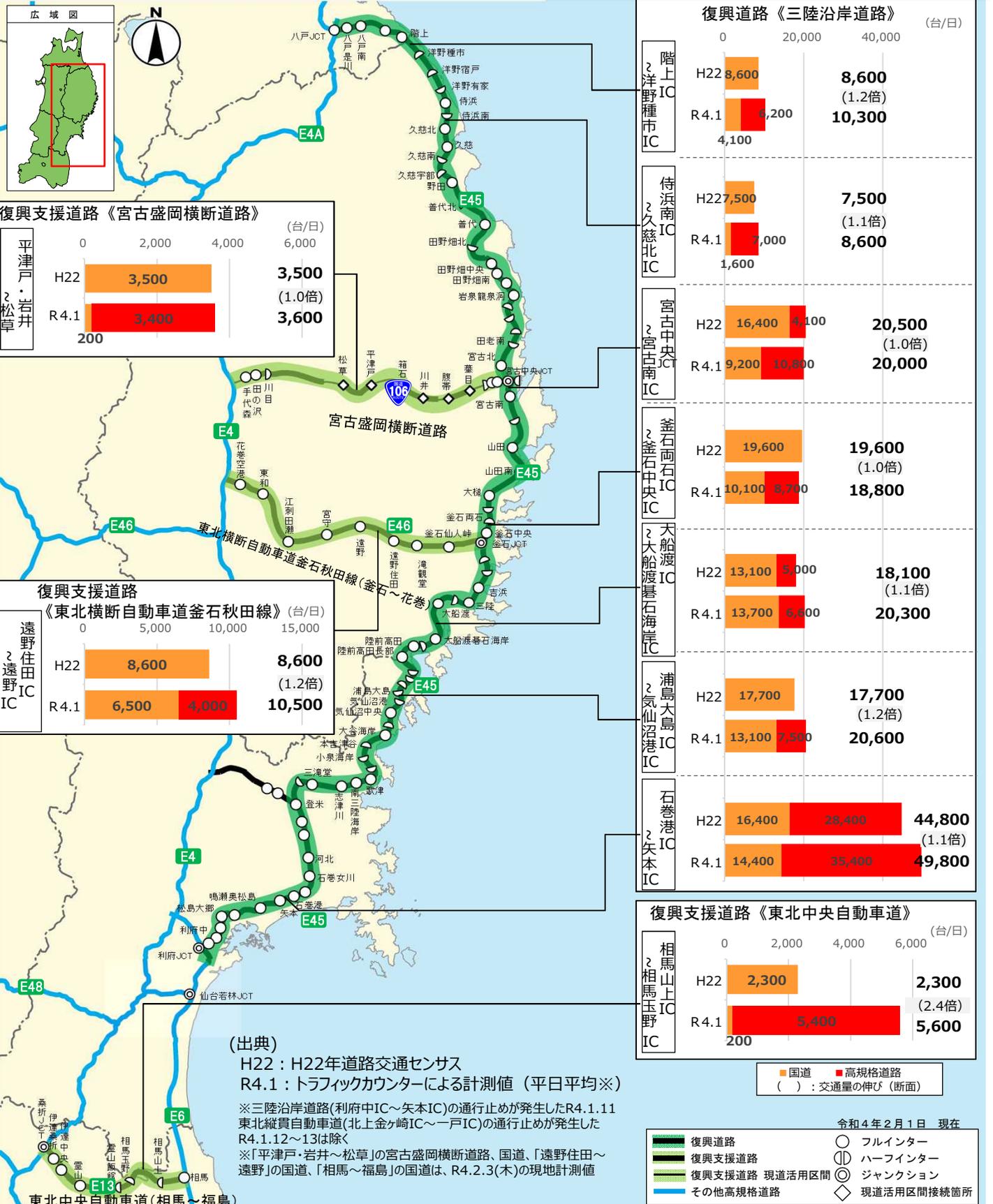
■移動時間短縮で、震災伝承施設の見学エリアや見学時間が拡大



復興道路・復興支援道路の交通量の変化 (H22⇒R4.1月)

平日 全車

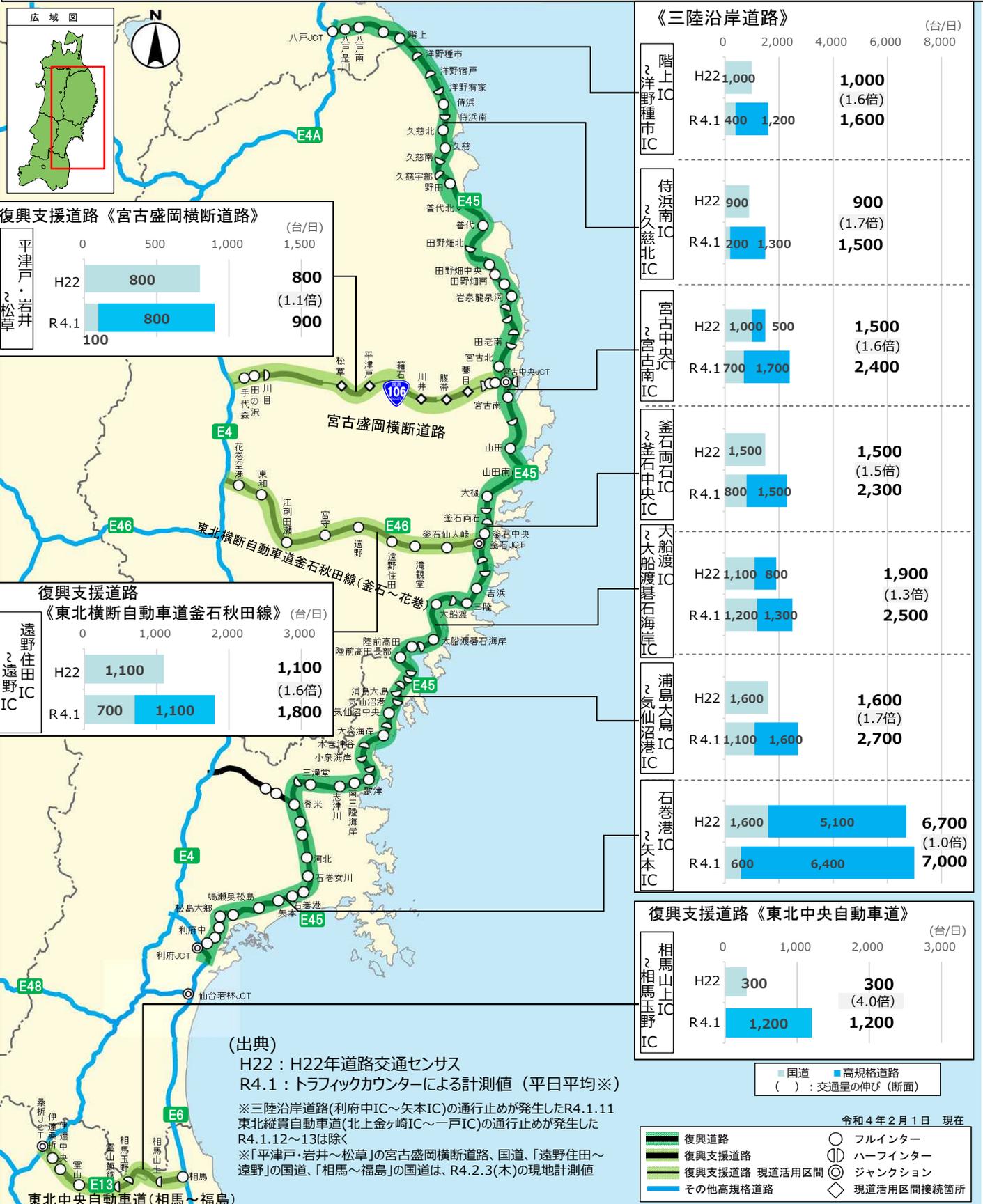
- 復興道路・復興支援道路整備後の交通量は**全路線で増加し、被災地の交流拡大を支援**
- 三陸沿岸道路では、特に宮城県内の交通量が大幅に増加(浦島大島IC～気仙沼港IC 約3,000台増)
- 東北中央自動車道では、**現道の隘路区間通行が回避され、内陸部と沿岸部の結びつきが強まり、交通量が約2.4倍に増加(相馬山上IC～相馬玉野IC 約3,300台増)**



復興道路・復興支援道路の交通量の変化 (H22⇒R4.1月)

平日 大型

- 復興道路・復興支援道路の整備後、特に大型車交通量の伸びが大きく、被災地の物流を支援
- 三陸沿岸道路では、特に岩手県内の大型車交通量が1.3倍～1.7倍に増加
- 東北横断自動車道釜石秋田線では、内陸部の工業集積地と釜石港の結びつきが強まり、大型車交通量が約1.6倍の増加(遠野住田IC～遠野IC 約700台増)



三陸沿岸道路は冬期においても信頼性の高い機能を確保

- 吹雪による東北自動車道の通行止め時に、**三陸沿岸道路の交通量は最大約1.6倍に増加(岩手県田野畑地区)**
- 大型車は約2,000台が東北自動車道から三陸沿岸道路に転換し、冬期でも信頼性の高い機能を確保**



【広域迂回案内の実施】

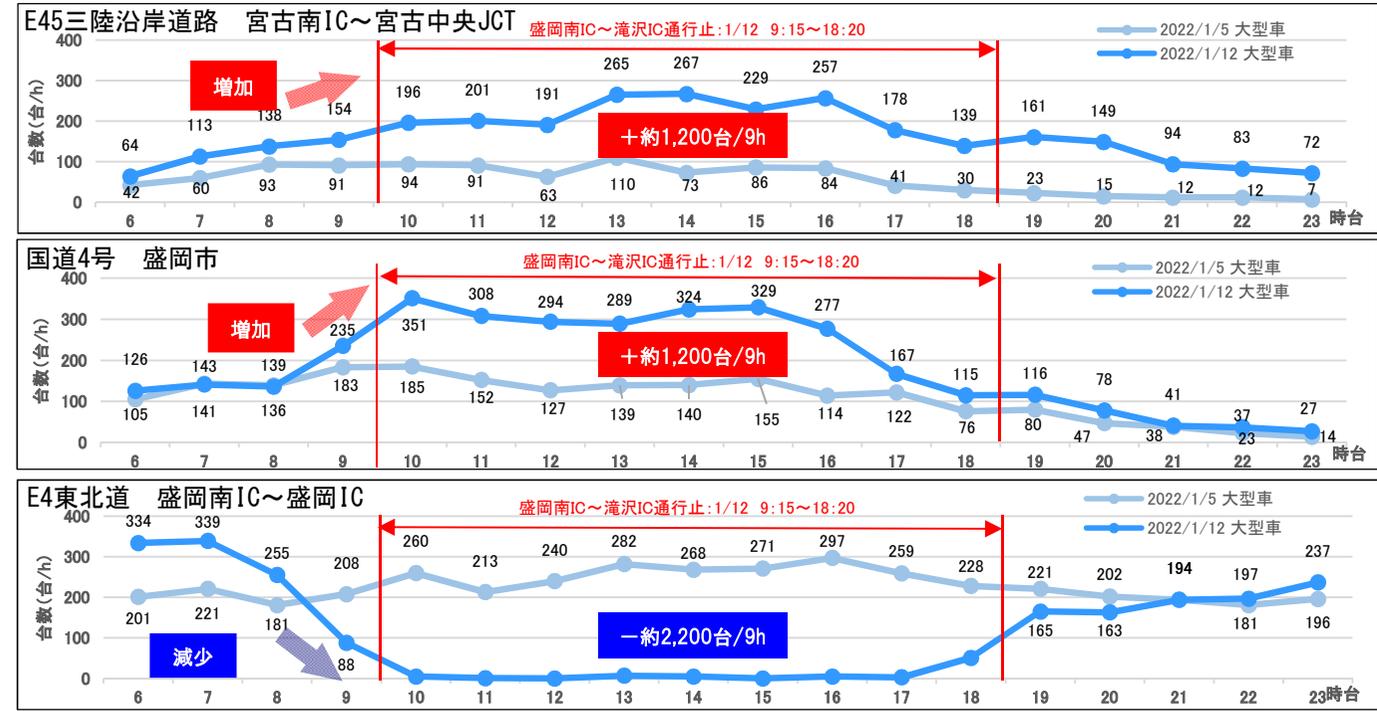
東北道(下)富谷ジャンクション情報板
E4北上金ヶ崎⇒E4鹿角八幡平 吹雪通行止
青森方面 E45三陸道もご利用を

八戸道(上)八戸ジャンクション【簡易LED】
E4東北道 吹雪通行止有
仙台方面 E45三陸道もご利用を

■三陸沿岸道路の交通量(前週と比較)



■並行する道路の断面交通量(大型車)の推移(前週と比較)



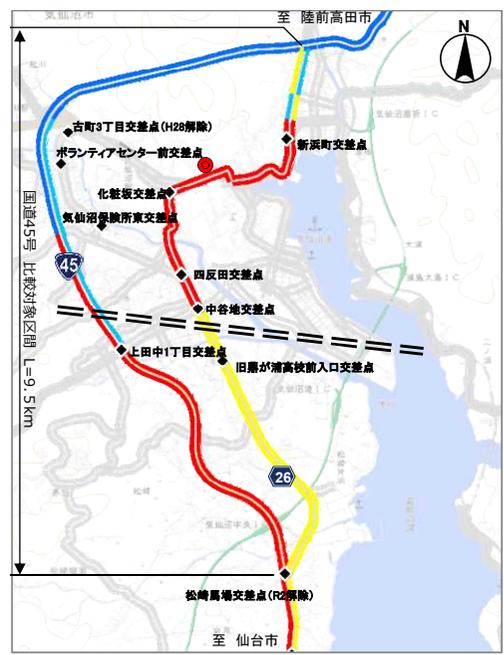
※出典: NEXCO東日本トラン計測値(速報値)、国土交通省トラン計測値(速報値)

沿線市街地の交通混雑が緩和

- 復興道路・復興支援道路の开通により、沿線市街地の交通混雑が緩和
- 宮城県気仙沼市内の幹線道路では、夕方時における速度20km/h以下の混雑区間が約44%から約2%まで減少
- 岩手県宮古市内の幹線道路では、夕方時における速度20km/h以下の混雑区間が約53%から約6%まで減少

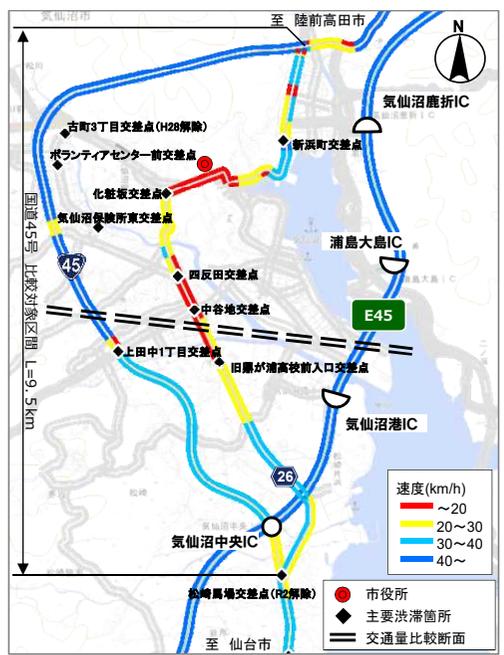
■宮城県気仙沼市内の走行速度の変化

◇全線开通前【H27】



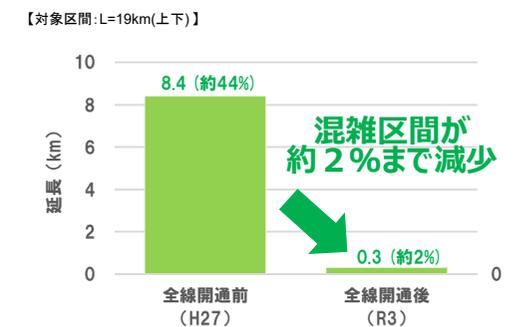
出典：H27 全国道路街路交通情勢調査 混雑時旅行速度

◇全線开通後【R3】



出典：R3 ETC2.0プローブデータ 10月平日17時台

■混雑区間の変化(国道45号)



※ 混雑区間とは、速度20km/h以下の区間(上り・下り)
 出典：H27 全国道路街路交通情勢調査 混雑時旅行速度、R3 ETC2.0プローブデータ 10月平日17時台

■断面交通量の変化



出典：H27 全国道路街路交通情勢調査 混雑時旅行速度、R3 10月のトラン日交通量(平日)

■岩手県宮古市内の走行速度の変化

◇全線开通前【H27】



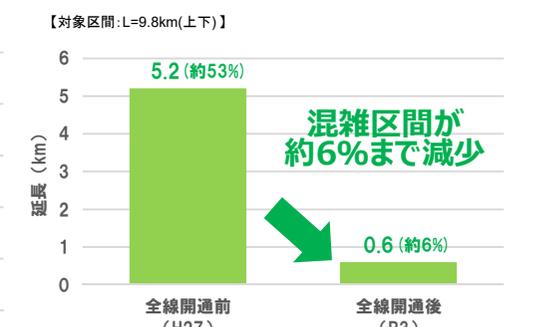
出典：H27 全国道路街路交通情勢調査 混雑時旅行速度

◇全線开通後【R3】



出典：R3 ETC2.0プローブデータ 10月平日17時台

■混雑区間の変化(国道106号)



※ 混雑区間とは、速度20km/h以下の区間(上り・下り)
 出典：H27 全国道路街路交通情勢調査 混雑時旅行速度、R3 ETC2.0プローブデータ 10月平日17時台

■断面交通量の変化



出典：H27年度全国道路・街路交通情勢調査結果、R3年度全国道路・街路交通情勢調査結果

都市間 (IC間) の所要時間・速度の変化

～ETC2.0データで分析 R4.1月(冬期)の平日平均の時間・速度～

○ 実際に走行した車両のデータ(ETC2.0データ※)を用いて、走行時間を分析

○ 仙台港北IC～八戸南IC間の走行時間は、約4時間30分

※車載器のGPSなどから経路情報や速度情報等を把握できるビッグデータ

